

軽度知的障害者の自己意識に関する研究

特性と心理的支援のあり方について

藤本優子 井上雅彦
神戸市立青陽東養護学校 兵庫教育大学

・ 目的 軽度の知的障害を持つ人たちの中には、健常の他者との比較の中で劣等感を持ったり、失敗経験の積み重ねの中から自信を失ってしまうケースも多い。都築・田中(1981)は、「精神遅滞児の自己意識は、生育過程で受ける特異な経験が影響を与えている。そして、自己意識を形成する上で、パーソナリティー構造の果たす役割は大きい。」としている。また、この研究では、知的障害児の自己意識の発達は、精神年齢に相当する健常児に最も近いことが示されており、生育歴や生活年齢の違いなどに分類して検討する必要性が述べられている。しかし、知的障害児の自己意識に関する研究はまだ少ない。本研究では、都築・田中(1981)の研究を基に自己意識評価尺度を作り、健常児、軽度知的障害者に自己意識評価を実施し、軽度知的障害者の自己意識が、精神年齢の他に生活年齢や生活環境に対してどのように関連するのかを明らかにすることを目的とする。

・ 方法 質問紙実施の方法は5件法で行った。軽度知的障害者に対しては養護学校生徒 111 名は学級担任が行い、残りの軽度知的障害者には、筆者が個別で行った。なお、回答があいまいな者には信頼性確認黙従反応尺度(愛知県コロニー発達障害研究所 2000)を利用し、信頼性に欠ける回答は除外した。統制群として健常児は、軽度知的障害者の精神年齢に近い小学2年生(117名)、小学5年生(124名)、中学2年生(145名)とした。また、生活年齢が近い高校2年生(253名)を調査対象とした。実験群として軽度知的障害者は、生育歴や今現在所属している所属機関により自己意識がどのように違うかを知るために、養護学校高等部生徒(145名・平均年齢16歳)、福祉施設通所者(25名・平均年齢17歳)、就職前訓練生(33名・平均年齢20歳)、授産施設利用者(29歳・平均年齢30歳)、一般就労者(64名・平均年齢24歳)、福祉的就労者(55名・平均年齢29歳)を調査対象とした。本研究の軽度知的障害者の「軽度」とは療育手帳B2又は、自己意識評価尺度に回答できる者を「軽度」と定義した。

・ 結果

1. 軽度知的障害者と健常児との自己意識の比較

軽度知的障害者の自己意識を健常児と比べると、カテゴリー分析では、生活の充実要因において訓練校生が中学2年生、高校2年生と同じような自己意識をもっており、進路問題に対する不安や、ストレスから低い自己意識であることが考えられた。社会対人関係要因の自己意識は就労者が生活年齢に近い自己意識を示した。また、異性に対する意識は、養護学校生、福祉施設生は中学2年生、高校2年生と近い結果となった。知的能力要因の自己意識は生活年齢と大きくかけはなれていた。容姿要因の自己意識は健常児とは違った自己意識であった。情緒要因の自己意識は各所属特有の結果であり比較することは難しかった。性格要因の自己意識は軽度知的障害者は小学2年生に相当することが言えた。各年齢段階別に見ていくと、高校生年齢(10代)の軽度知的障害児は、健常児の高校生と生活形態に違いはあるが、進路問題にストレスを感じ、生活の充実や自信が持てない生活を送っているのではないかと考えられた。

2. 軽度知的障害者の自己意識調査の因子分析について

軽度知的障害者 349 名の自己意識に関する調査結果について、因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行い、5 因子を抽出した。第 1 因子を「生活の充実と自信」、第 2 因子を「社会的不安」、第 3 因子を「友人関係」、第 4 因子を「容姿」、第 5 因子を「自立の準備」と命名した。第 1 因子の「生活の充実と自信」は福祉的就労者の因子得点平均値が高い。また、質問項目である「私は、自信を持って生活している。」の得点平均値も高い。年齢別に見ると 30 代の因子得点平均値が高く 10 代の因子得点平均値が低い。第 2 因子の「社会的不安」は養護学校生、訓練校生、福祉施設生の因子得点平均値が高い。年齢別でも 10 代の因子得点平均値が高い。第 3 因子の「友人関係」は福祉施設の因子得点平均値が高い。そして、訓練校生の因子得点平均値が低い。また、年齢別に見ると 40~60 代の因子得点平均値が高い。

考察

養護学校高等部生徒は、生活の安定感がなく、充実感や自信を失いがちになっている。また、社会的不安も強い。福祉施設通園生は、自己と他者の比較が十分に行える。それゆえに低い自己評価を持つことにもなる。しかし、劣等感を持つまでには至っていない。就労前訓練生は、就労に対してプレッシャーを感じている者も多い。客観的に自己を評価することもできる。年齢的に若い訓練生も多いので、生活に充実感があり、自信が持てるような指導が必要である。授産施設利用者は情緒的に安定している。将来に対する不安もなく、今の生活に満足している。自己実現でき

表4-1 自己意識因子分析結果(N=349)

| 質問項目 | 因子負荷量 | | | | | h2 |
|-----------------------------------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 生活の充実と自信(=0.85) | | | | | | |
| 14. 私は最後まで物事に取り組める。 | .685 | -.095 | .050 | -.026 | .093 | .491 |
| 31. 私は 素直である。 | .639 | -.097 | .097 | .118 | .049 | .443 |
| 12. 私は 人の言うことを注意して聞く。 | .567 | -.115 | .137 | .056 | -.019 | .357 |
| 36. 私は 役に立つ新しいことを考えることができる。 | .530 | .072 | .298 | .042 | .133 | .349 |
| 6. 私は 自信を持って生活している。 | .529 | -.172 | .245 | .175 | .150 | .423 |
| 30. 私は 几帳面である。 | .519 | .046 | .017 | .070 | .113 | .289 |
| 33. 私は 何事も進んで行く。 | .478 | -.026 | .187 | -.019 | .331 | .374 |
| 29. 私は 約束したことを守る。 | .472 | -.099 | .164 | .091 | .015 | .268 |
| 1. 私は 毎日楽しい ことが多い。 | .444 | .016 | .241 | .228 | .026 | .308 |
| 17. 私は 新しいことを習ったり、覚えたりするのが楽しみである。 | .443 | -.020 | .227 | .131 | -.102 | .275 |
| 4. 私は (学校 施設 職場) へ行くのが楽しみである。 | .429 | -.113 | .095 | .188 | -.047 | .244 |
| 34. 私は 習ったことを他のことにも使える。 | .428 | .078 | .247 | .042 | .181 | .283 |
| 27. 私は 頭がよい。 | .424 | -.160 | .033 | .422 | .157 | .409 |
| 32. 私は 人からほめられるのからかい。 | .404 | .086 | .086 | .117 | -.056 | .198 |
| 18. 私は 家族と仲がよい。 | .401 | -.022 | .103 | .212 | -.158 | .242 |
| 社会的不安(=0.51) | | | | | | |
| 19. 私は 気持ちが落ちつかない 時がある。 | -.178 | .610 | .174 | -.111 | .021 | .447 |
| 9. 私は 人から何か言われると気になる。 | .031 | .547 | .121 | -.088 | -.153 | .346 |
| 24. 私は カットになりやすい。 | -.244 | .527 | .087 | -.103 | .027 | .357 |
| 47. 私は 人より劣っていると感じる ことがある。 | -.036 | -.527 | .030 | .118 | .096 | .303 |
| 16. 私は 前にした失敗をよくよと考える。 | .089 | .521 | .030 | .053 | -.120 | .297 |
| 41. 私は 将来について考えると不安になる。 | .049 | .463 | -.045 | -.173 | -.247 | .310 |
| 44. 私は 友達とケンカする。 | -.226 | .404 | .102 | -.123 | .084 | .247 |
| 友人関係(=0.76) | | | | | | |
| 35. 私は 友達が多い。 | .177 | .086 | .663 | .181 | .125 | .527 |
| 28. 私は 友達と遊ぶのが好きである。 | .052 | .036 | .579 | .028 | -.010 | .350 |
| 46. 私は 困った時に相談できる人がいる。 | .166 | .095 | .548 | -.074 | .040 | .344 |
| 21. 私は 友達が困っている時助けあげる。 | .225 | .039 | .541 | -.040 | .011 | .346 |
| 2. 私は 周りの人と仲良くできる。 | .344 | -.013 | .453 | .181 | -.070 | .361 |
| 15. 私は 初めて会った人と仲良くできる。 | .302 | .019 | .401 | .166 | .151 | .303 |
| 容姿(=0.80) | | | | | | |
| 8. 私は かっこいい(美人である)。 | .245 | -.149 | .110 | .737 | .089 | .645 |
| 45. 私は スタイルがよい。 | .341 | -.139 | .043 | .648 | .115 | .570 |
| 自立の準備(=0.47) | | | | | | |
| 22. 私は 他の人の助けを借りないで一人ですらうとする。 | -.057 | -.019 | -.042 | .043 | .414 | .179 |
| 38. 私は 迷わず決心がつく。 | .240 | -.106 | .058 | .151 | .398 | .253 |
| 39. 私は 困ることがあっても明るくすることができる。 | .333 | -.044 | .065 | .065 | .358 | .244 |
| 固有値 | 7.377 | 3.839 | 1.874 | 1.811 | 1.463 | 16.364 |
| 寄与率(%) | 17.565 | 9.068 | 4.461 | 4.314 | 3.484 | 38.892 |

ているかのように思われる。一般就労者は、毎日決まった作業を繰り返すことにより健常者と比較しても劣等感を抱くことなく、自信へとつながっている。職場の同僚や上司の理解があれば精神的に安定した生活を送ることができる。福祉的就労者は彼らのことをよく理解している指導者のもとで作業を行っている。グループホームや一人暮らしを行っている者の生活基盤が安定するための支援、作業を良好に行うための支援の両面からの援助により、生活の充実と自信を得ている。彼らのことを良く理解した指導的立場の人が職場にいることは重要なことである。次に心理的支援のあり方を考えると、彼らは自己に対して考える機会が少なく、自己を振り返ることも少ない。内省することが難しく自分を反省したり、他者と比較することも少ない。常に自分の世界からみた社会である。しかし、社会的不安等は強く周りの人の反応を気にしている。そして軽度知的障害者は自己に対して内面深く意識できないのと同時に、他者意識においても深く読み取ることができず、返って余計な心配をしたり、不安になったりするのではないだろうか。それゆえ彼らの自己意識を即時的自己意識から対自的自己意識に育てていく必要がある。それらは、あらゆる教育活動の場面で、早期より発達年齢に合った自己意識を知り、意図的に教育活動に取り入れていかなければならない。

本研究では、質問紙を使って軽度知的障害者に調査を行った。軽度知的障害者といっても程度の範囲が広く、個々の精神年齢まで調査することはできなかった。今後研究を続けるにあたっては、精神年齢の統制を行う必要がある。また、知的障害者本人に行う質的研究として、抽象的な質問ではなく、生活に即したより具体的な質問を時間をかけて、半構造化面接で行う方がよりよい調査結果を得ることができると思われる。